

# 甲斐市立 玉幡小学校 自己評価書

令和 4年 2月 1日 (火) 作成

校長 「 小林 正彦 」 記述者 職名 ( 教頭 ) 「 窪田 正幸 」

学校教育目標 「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成」

学校経営方針 「人が好き、学びが好き、自分が好きな子どもの育成」

- ①地域や児童の実態に応じた適切な教育課程の編成と実施に努める。
- ②学習環境の整備と確かな学力の育成に努める。
- ③生活規律と思いやりの心を育む集団づくりに努める。
- ④体力向上・健康増進の推進に努める。
- ⑤ニーズに応じた特別支援教育の実施に努める。
- ⑥安全安心で地域に開かれた学校づくりに努める。

## 1 全体評価

- ・「教職員自己評価」「保護者アンケート」「児童アンケート」の3つのアンケートを実施した。結果は、A評価(とても思う)とB評価(思う)を合わせて肯定的な評価として捉えることとした。その中で、肯定的評価の割合が8割を切る質問項目については課題と捉え、改善策を考え、実施していく。
- ・全般的に教職員・児童・保護者のアンケート結果はどの項目も肯定的な評価結果であり、全体的に見て本校教育の充実をうかがえる。
- ・児童アンケートでは、「学校が楽しいですか」の質問項目においては、9割に近い児童が肯定的評価をしている。このことから、概ね児童は楽しい学校生活を送っていると言える。しかし、少数ではあるが否定的な評価もある。このことについては、重要課題として適切な支援指導を行っていく。

## 2 項目ごとの評価結果(達成状況・改善策)

### I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況	<ul style="list-style-type: none"><li>・「学校教育目標・学校経営」については、肯定的評価がすべての項目で100%であった。全項目でA評価が高く、教職員が学校教育目標を意識していること、学校全体として教育目標の達成に向けて組織的・計画的な取組がなされていることがわかる。一方、PDCAサイクルを生かした教育活動については、A評価が他項目と比較して低い。評価・改善の視点で教育活動全体を検証していく取組を、さらに進めていく必要がある。同様に、個々の職員が行う実態に即した教育実践についても、他項目と比較してA評価が低い結果となっている。さらに学校全体として組織的な取組を行っていく必要がある。</li></ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・PDCAサイクルについては、新学習指導要領におけるカリキュラムマネジメントを推進していく重要な視点の一つとして必要とされていることなので、改めて意識して取り組んでいく必要がある。各行事や活動ごとの振り返りを確実に実施していくとともに、全職員で課題と改善策を明確にし、次の教育活動に生かすことに、組織的に取り組んでいきたい。</li><li>・様々な特性をもった児童への対応の仕方や楽しくよくわかる授業の実践など、教職員も日々研鑽を積んでいく必要がある。校内研究での実践交流・学年内での情報交換・自己観察目標に即した管理職の指導・助言等、組織的に、かつ過度な負担とならないような方法で実践力の向上を図っていく必要がある。</li><li>・若手教員が増えていく中で、実践力を高めていくための取組は必須である。ベテラン・中堅教諭からの助言やOJTを通した日々の研鑽に力を入れていく。</li></ul>

II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営については、全ての項目が肯定的評価であった。特に「他の職員との協働体制による教育活動」については、A評価が昨年度よりも増加した。若手教員も含めて、職場全体を見ながら協力してやっていこうという雰囲気が醸成されている。また「危機管理マニュアルへの理解」についても、A評価が昨年度よりも増加した。保護者アンケートの「安全な学校生活への取組」が93%の肯定的評価とされていることから、実践的な避難訓練や登下校指導等、児童の安全な学校生活のための取組が成果となって表れていると考える。一方、「校務支援システムの活用」は、昨年度より評価が上がっているが、まだ十分とは言えない状況である。また、「働き方改革を意識した職務の遂行」については、肯定的評価がほとんどだが、A評価は大幅に減少した。なかなか思うように進まない中ではあるが、何らかの対応策を検討していく必要がある。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>「校務支援システムの活用」については、導入2年目ということもあり、昨年度よりも活用に慣れてきている教職員が多い。しかし一方で、活用の度合いに個人差が見られている状況もある。県として、校務支援システムの活用をさらに推し進めていく方針でもあることから、実際に校務処理をしながら完熟の度合いを高めていけるようにしていく。</li> <li>多忙化改善には取り組んでいるものの、多人数単学級への対応や特別な支援を必要としている児童の増加、新型コロナウイルス感染症予防への対応や授業時数の確保等、運営面での厳しさが増している状況の中で、なかなか進んでいないのが現状である。今後も引き続き、いかに改善を図るか組織的に検討しながら模索していきたいと考えている。</li> </ul>
III 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の自己評価では、7項目中5項目で、肯定的評価が100%であった。特に、「学びの意欲を喚起する授業づくり」と「玉小学習ルールの徹底」については、昨年度と比較してA評価が25%程度向上している。このことから、教職員が学習規律や環境を整え、意欲的に学習指導に取り組んでいることが伺える。一方、「ICTを効果的に活用した授業づくり」はC評価が複数の教職員から出された。ICTの活用ありきではないが、より学習効果のある場面での活用方法について実践を積み重ねていく必要がある。</li> <li>児童・保護者アンケートからは、児童の「先生はよく勉強を教えてくれる」の肯定的評価はほぼ100%、保護者の「学校は熱心に授業に取り組んでいる」についても肯定的評価が約95%となっており、教師の指導の熱意が伝わっていることがよくわかる。一方で、「わからないことがあったら先生に聞いている」は、肯定率65%と低くなっている。</li> <li>「宿題を忘れずしている」の児童評価は約94%、保護者評価は約97%と高いが、「自主学習をしている」の保護者評価については、41%と肯定率が低い。</li> <li>「学習以外でのスマホ・タブレット・ゲーム機等の使用時間」が毎日2時間以上と回答した児童の割合が約40%を超え、昨年度よりも10%程増えている。一方で、読書時間については30分以上読書をする割合が、児童と保護者で数値に違いがあるものの、昨年度より5%程向上している。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>「できるようになりたい」という気持ちがあっても、あきらめたり他のことを優先してしまったりすることがある。質問できる力、あきらめず粘り強く取り組む姿勢などを育むとともに、個への声かけを引き続き行っていく。</li> <li>「家庭学習がんばる週間」の取組期間中は児童や保護者の意識も高いが、一時的なもので終わってしまう傾向がある。習慣化するために、継続した取組と合わせて「学びの甲斐善8か条」で示されている具体的な取組を保護者と共有しながら取り組んでいく。</li> <li>スマホ・タブレット等の使用については、保護者への啓発を中心に行っていくことが大切である。同時に、学校においては、今後も読み聞かせや学校図書館を中心とした様々な取組を継続・充実させ、読書の楽しさを感じ取らせていく。</li> </ul>

IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の自己評価では、生徒指導については、ほとんどの項目で肯定的評価が100%であった。また、6項目の中でA評価が最も高い項目が5項目となり、教職員が熱心に生徒指導に取り組んでいることが伺える。</li> <li>・「きまりを守る」「清掃をしっかりする」「委員会活動にしっかり取り組む」などについて、児童の肯定的回答が93～99%と高い。依然として、児童の規範意識は高く、学校生活にまじめに取り組む児童の姿が見える。</li> <li>・保護者が「相談できる先生がいる」と回答した割合は約3%上昇したが、児童は約5%減少した。高学年ほど肯定的評価が低くなる傾向も見取れる。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからも、きまりを守り、「ノーチャイム」「日本一のろうか」「無言清掃」を意識して頑張っている児童の姿を認め、褒めながら、学校全体の自尊感情を育てていきたい。</li> <li>・生徒指導委員会・特別支援委員会の機能をさらに高め、Q-Uやいじめアンケートも活用しながら、課題のある児童に対して、きめ細かな対応をしていく。また、SC・家庭児童相談員など関係機関との連携をさらに強めて、児童指導にあたっていく。</li> <li>・児童の指導において家庭との連携は必須である。感染症対策による様々な制限はあるが、各担当が、連絡帳や電話でのやりとり等、保護者と丁寧に関わりながら信頼関係を築いていく。また、多忙化解消の取組と合わせながら、児童と向き合える時間をより多く確保できるような取組を進め、児童との信頼関係を高められるようにしていく。</li> </ul>
V 地域との連携について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の自己評価では、昨年度と比較して、特に「学校に対する要望を聞く機会を設けている」のA評価が10%、「おたよりやHPを通して広報している」のA評価が18%向上した。保護者評価の「保護者・地域住民の声に耳を傾けている」「おたより、HP等から学校の様子を知ることができる」は昨年度より微減しているが、肯定的評価は80%を超えている。このことから、おたよりやHP等により学校の様子が保護者には概ね伝わっていることが伺える。</li> <li>・「地域の教育力を生かす指導をしている」についての肯定的評価は、88%と高い評価ではあったが、昨年度と比較すると8%程度下がった。コロナ禍における取組の難しさが表れている。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も新型コロナウイルスの影響で、例年通りの形で学校行事を行うことができない状況であったが、おたよりやHP、授業参観や学校行事を通じて保護者や地域に情報を提供してきた。これからも学校の思いを積極的に発信することに努めると同時に、PTA・学校評議員会・関係者評価委員会での話し合いやアンケートにより保護者や地域の意見・要望を積極的に取り入れていきたい。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響で学校応援団「チームたまはた」等、保護者や地域の方を例年通り受け入れられなかった。今後の感染状況にもよるが、できる範囲での連携を模索しながら、子どもたちの学習活動の充実を図っていきたい。</li> </ul>
VI 学校の特色に関して	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の自己評価では、4項目の全てにおいて肯定的評価が100%であった。このことから、玉幡小学校として力を入れている「あいさつ」や「ノーチャイム」の指導に、教職員が意識して取り組んでいることが分かる。しかしながら、いずれもA評価の減少が見られている。関連する保護者評価では、「学校以外でもあいさつをするよう指導している」の肯定的評価は80%だったが、昨年度より4%程度減少している。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童のあいさつについては、個人差が大きい。児童会の取組として、例年あいさつ運動にも取り組んでいるが、期間を限定した強化週間とともに、日常的な指導や取組が大切になってくる。児童会を中心とした子どもたち自身の自発的な取組と共に、教職員の声かけや保護者・地域への呼びかけ等を行い、今後も挨拶の励行に努めていく。</li> </ul>

VII 創甲斐教育について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の自己評価では、3項目すべてにおいて肯定的評価であった。しかも「言語の習得に向けた指導（国語力の向上）」については100%、「対話的な学びの充実（自己表現力の向上）」は92%、「体力向上や運動習慣の形成（体力の向上）」は96%と高評価である。校内研究で、話型を活用した対話的な学びの実践に取り組んできたことで、教職員の意識が大いに高まったことが背景にあると考えられる。一方で、「体力向上」については、A評価の割合が約26%と低くなっていることに課題が見て取れる。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創甲斐教育については、その意義を全職員で共有しながら取り組んでいく。日常の授業や校内研究での実践に加え、各種学力テストの結果や体力・運動能力・運動習慣等調査の結果から児童の実態を把握し、目指す児童像を明確にしながら、組織的・計画的に教育課程の中に位置づけながら取り組んでいくことが必要である。</li> </ul>
<h3>3 まとめ</h3> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育目標、学校経営方針の全職員の共通理解のもと、適切な学校運営ができている。</li> <li>・保護者・地域と学校が良好な関係を築いている。連携協力のもと、人間性豊かな児童の育成を目指し、学校教育活動が推進されている。</li> <li>・学校生活全般にわたり、まじめに取り組む児童が育っている。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究の成果を生かしながら、児童が進んで発言するとともに、対話的な活動を通して学びを深め合える授業づくりに取り組む。</li> <li>・業務改善の取組を進め、教師が子どもと向き合える時間をより多く確保できるようにしていく。</li> <li>・家庭での自主学習等の取り組みのさらなる充実を図る。</li> <li>・読書活動を推進する一方で、家庭でのゲーム時間管理等への啓発を行う。</li> <li>・新型コロナウイルスが収束した後は、学校応援団「チームたまはた」の活用、及び授業や行事を積極的に公開することを通して、開かれた学校づくりに取り組む。</li> <li>・全ての子どもが楽しく登校できる学校・学級づくりをさらに推進する。</li> </ul>	